

理科 小中一貫カリキュラム 概要表

掛川市の子どもに付けさせたい力

- ・身の回りの自然事象に興味をもち、科学的に探究し解決しようとする力
- ・自分の学びと自分の身の回りのことを関連付けながら、学びを深めていく力
- ・掛川のよさを科学的に感じられる力

重点内容

- ・問題解決的な学習を通した科学的概念の構築のための「見通しをもって観察、実験を行う場」「観察、実験を基に自分の考えをまとめ、発表や説明をする場」の設定
- ・学んだことが自然の中で成り立っていること、日常生活と関連していることを確かめる場の設定
- ・課題を解決するための観察、実験技能の向上のための具体的な観察、実験器具の名称理解・使い方指導の充実

発達段階における子どもの姿



中学校

3年：見通しをもって観察、実験などを行い、その結果（や資料）を分析して解釈することを通して、特徴、規則性、関係性を見いだして表現する。また、探究の過程を振り返る。

「塩化銅水溶液に電流を流すとどうなるのだろう。」「こすってみたらどうだろう。」

2年：見通しをもって解決する方法を立案して、観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈することを通して、規則性や関係性を見いだして表現する。

「この卵の腐ったような異様な臭いは何だろう。」

1年：問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行うことを通して【規則性、関係性、共通性や相違点、分類するための観点や基準】を見いだして表現する。

「粒子が動いているから、体積が大きくなるだろうか。」

小学校（高学年）

6年：多面的に調べる活動を通して、自然の事物・現象について追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現する。

「検知管ではどうだろう。酸素センサーは。石灰水でも調べられるだろうか。」

5年：条件を制御しながら調べる活動を通して、自然の事物・現象について追究する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する。

「水の条件は、いっしょにした方がいいだろうか。」「肥料を与えたらどうなるだろう。」

小学校（中学年）

4年：関係付けて調べる活動を通して、自然の事物・現象について追究する中で、既習の内容や生活体験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現する。

「空気のときも、学習したね。」

3年：比較しながら調べる活動を通して、自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現する。

「日陰の長さが違うだろうか。」「カブトムシのあしは6本あるだろうか。」